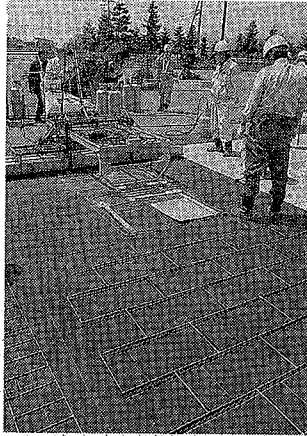


# アスファルト舗装に意匠

## れんがや石畳プリント 学校、商業施設へ採用提案

### 不二建設が普及拡大へ

【岩見沢】不二建設(本社・札幌)は、既設のアスファルト路面をれんが敷きや石畳のように見せる型押し工法「ストリートプリント」を導入した。鋼製の専用テンプレートで既設のアスファルト舗装に型押しした後、特殊なコーティング材を塗ることで、色鮮やかな路面を作り出す。色や模様のパリエーションが豊富なことから、学校や病院のほか、商業施設など幅広い場所で採用してもらいたい考えだ。



ストリートプリントは専用テンプレートで既設のアスファルト路面に溝を作り、舗装表面に意匠を持たせる工法。テンプレートは直径90センチでできている。れんが敷きや石畳などさまざまな模様を付けられる。トミナゴコーポレーション(福岡県春日市)を中核とするストリートプリント工業会が保有する工法で、不二建設は管内施工代理店として普及を図る。作業は、模様を付ける区間を墨出しした後、専用の加熱装置「ストリートヒート」を使って施工箇所を140〜160度に加熱。アスファルトの軟化を見計らい、テンプレートを配置しながら締め固め機(プレートコンパクター)で型押しする。しっかりと型が押されたことを確認してからテンプレートを取り外し、特殊塗料「ストリートボンド」を専用のガン Sprey で吹き付ける。直後にデッキブラシなどで塗装面をこすりながら、目地にたまった塗料を分散させ、塗装膜を均一化。塗布作業を3度繰り返して、ストリートボンドを3層化させて完成となる。ストリートボンドはエポキシ樹脂をベースとし、高い耐久性を持つ。温度変化や荷重に対する柔軟性も備え、ひび割れの発生も抑えられる。紫外線が当たっても退色しにくい耐候性を持つほか、インターロッキング



専用のガン Sprey で塗料を吹き付けながら、デッキブラシで塗装膜を均一化

心とするストリートプリント工業会が保有する工法で、不二建設は管内施工代理店として普及を図る。作業は、模様を付ける区間を墨出しした後、専用の加熱装置「ストリートヒート」を使って施工箇所を140〜160度に加熱。アスファルトの軟化を見計らい、テンプレートを配置しながら締め固め機(プレートコンパクター)で型押しする。しっかりと型が押されたことを確認してからテンプレートを取り外し、特殊塗料「ストリートボンド」を専用のガン Sprey で吹き付ける。直後にデッキブラシなどで塗装面をこすりながら、目地にたまった塗料を分散させ、塗装膜を均一化。塗布作業を3度繰り返して、ストリートボンドを3層化させて完成となる。

ストリートボンドはエポキシ樹脂をベースとし、高い耐久性を持つ。温度変化や荷重に対する柔軟性も備え、ひび割れの発生も抑えられる。紫外線が当たっても退色しにくい耐候性を持つほか、インターロッキング

を確保した。価格は1平方メートルあたり約6500円。インターロッキングブロックに比べ割高だが、メンテナンス性など長期的なコスト競争力はあるという。学校や幼稚園のエンタランス部分のほか、駅やバス停留所の広場、ショッピングセンターの歩行空間などで採用してもらいたい考えだ。

一方のテンプレートは、れんがを均等に敷き詰めたような「オフセットブロック」や、石を無造作に置いた「ランダムストリート」など9種類をラインアップ。数字やアルファベットなどの型もあり、豊富なカラーパリエーションをアレンジすることで幼稚園や病院、駅など、空間の雰囲気に合わせてアスファルト舗装を演出できる。滝川本店前の駐車場で24日までに実施した試験施工では、約550平方メートルの範囲に575サインのストリートプリントを施工。車椅子マークや高齢運転者標識の付いた駐車スペースも手掛けた。アスファルト合材は細粒度と細粒度ギャップ、密粒度の3規格を使用。型押ししやすさをストリートボンドとの相性を